

# 第10回ふくしまUDフェア報告

## ご協力ありがとうございました！

### ■「UDフェア10年の重み」

NPOふくしまユニバーサルデザイン 理事長 佐々木善壽  
第10回ふくしまUDフェアも無事終了し、関係者の皆様のご支援ご協力を心より感謝申し上げます。

ここまで継続できましたのも、郡山商工会議所と郡山地域テクノポリス様の強力なご支援とご協力の賜物です。また、常に黙々とUD実行委員会を支え続けたFUD幹事・事務局の懸命な努力が有ったからこそと改めて御礼申し上げます。

今回で最後のUDフェアを通して10年の歩みをつくづく振り返りながら、やってきたことの大きさと重さを実感しております。時は、UDがこれからの世の中で当たり前の考え方になりつつあり、ますますUDフル社会が必要としています。

まさにこれからがUD社会の本番であり、私たちFUD活動の真価と成果が問われようとしています。NPO活動も社会に根ざした実績が求められ、行政との協働もますます望まれています。私達FUDは、今後ともUD運動を真正面から取り組み、少しでも社会に貢献してゆきたいと考えております。

どうぞこれからもご支援ご協力をよろしくお願い致します。

### ■「第10回ふくしまUDフェア」大盛況!!

郡山商工会議所会頭 丹治一郎氏

日本におけるUDの第一人者である中川聰氏（トライポッド・デザイン株式会社 代表）を招き、「トライポッドデザイン・ヒストリー展」では同社の取組みがわかりやすく紹介され、「特別講演会」・「UDパネルディスカッション」では多くの来場者が耳を傾けて、UDをより身近に感じていただきました。

「UDフェア10年の歩みアーカイブ展」では、これまで県知事賞を受賞した企業・団体の紹介及び福島県でのUDのひろがり展示され、大変好評でした。

来場された皆様、出展して頂いた企業・団体の皆様、開催にあたってご尽力頂いた関係者の皆様に感謝申し上げます。

財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 常務理事 熊田正治氏

第10回という節目に当たる「ふくしまユニバーサルデザインフェア」が成功裡に無事終了しました。ここまで継続できたことに、主催団体の一員として、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。現在、行政、企業、学校、団体等では、UDの様々な取り組みが行われております。これらを一堂に会した「ふくしまUDフェア」は、一般の人たちに広くUDを理解してもらうための情報や機会を提供できたと思います。これからも、何らかの形で地域から情報を発信することは必要かと考えます。

### ■第10回ふくしまUDフェア記念特別講演 「違和感から気づく暮らしのユニバーサルデザイン」

トライポッド・デザイン(株) 中川聰氏

講師は、まずUD運動・フェアの10年の継続に敬意を表し、次の10年を考える機会にしたいと話し、UD展10周年への参加と記念セミナーの出来る事に感謝を述べて講演が始まりました。



UDはまだ「バリアフリー」であったり「高齢者使用」からスタートしながら、「皆に優しい」「思いやりがある」という事で安心納得し、まだ本質的な各論に進んでいない、として具体的な事例展開に入りました。

《バス停から》生活（空間）からバス停が切り離されコミュニティから外れている現状をウォッチングし非常に憂慮し問題提起をする。また、いまや公園も目の届かない危険な場所になり本来の目的を見失いかけている。このことに対して何を感じ気付くか？ UD・デザインは生活の中での違和感や実態から「気付き」から始まる事を力説。バス停の時刻表示が見えない読めないのに、皆が特に関係者が無頓着という「ちぐはぐ」な物がある世の中になり、誰の為に・何の為に、つまり“ユーザーの為に”こそが価値であることが疎かになっていることを強調し、「違和感」こそUDの出発点であり大切にすべきと説く。

《暮らしへの眼差し》特にUDはハードや物・環境だけでなく、サービスや思いやり・心がより重要であり基本であること、このことを意識し・気付き・違和感を持ち続けて考え続けデザインをする必要性を話す。

《違和感に気付くこと》階段やグレーチング（網目排水溝）から様々な事が起きている事、また次に身近な生活の中での問題を紹介する。・どうやって行こう？・落とし穴・途切れたペイル（誘導表示ペイント）・見えないサイン・開くはずの（開かない）ドア・（手の）届かない電話・見づらい地図（地下鉄路線図）などと、高齢化は課題の山積みで今や平均的・曖昧では済まない世の中、仕組みや組織・テクノロジーがどんどん変わっているのにまだまだ物や制度が旧態依然であり、新たな見直し（違和感の気付き）こそ最も大事なポイントであることを強調した。

結びとして下記のお話しと言葉がとて鮮烈で印象的でした。「当事者や本人も気付かないものを気付くくらいに、ユーザーと同じ目線同じ状況を徹底して作り出し、気付きの進化・意識の過程を最も大切にもの作りをする事がUDの根本である。気付き方が変わるとUDが進化しイノベーションが起き、新しい産業・製品軸やブランドが生まれる。」

《人間は、自分の能力を最後まで使い切ることを》

《社会は個から始まり、やがて個を照らす。》

（事務局 佐々木記）

## ■第10回ふくしま UD フェアパネルディスカッション 「UD10年の歩みとこれから期待されるUD発見!」 ～UDで生活のレベルアップと地域のものづくり～

コーディネーター／福島大学行政政策学類 准教授 鈴木 典夫氏

パネラー／トライポッド・デザイン(株) 代表取締役 中川 聰氏  
日本大学理事・福島県産学官連携アドバイザー 小野沢元久氏  
郡山人権擁護委員協議会 人権擁護委員 齋等 鈴子氏  
NPOふくしまユニバーサルデザイン理事長 佐々木 善壽

進行は3名のパネラーの方に意見をいただき、それに対して、中川氏にコメントを頂くという形で行われました。



▶**小野沢氏**「UDの10年という活動の継続は努力の賜物で大きな力である。本来ものづくりは人にやさしくUDの思想は当たり前だったのに、いつの間にか、経済優先の標準仕様大量生産型になってしまった。UDがキーワードになってしまったのは特別な考え方が必要になったから。今、これらを見直すとき。街の中に空気として、UDを感じられるような具体的な形を。簡単、便利、安価などの価値基準で大量に供給されたものによって構築、影響される社会環境が、人や自然にとってより良いものであるためにはUDやサステナビリティの考え方が認識される必要がある」

▶**齋藤氏**「UDを詳しくは知らなかったが、『森の案内人』『男女共同サポーター』『人権擁護委員』等の経験から人権が基本にある事の重要性という部分では、共通の認識であり、UDは人権尊重をもとに共生社会の推進に、具体的な方法を示せる重要な一面を持つもので、理解や認識を広める必要があり、生活のレベルアップに今後活かせる可能性をもっていると思う」



▶**佐々木理事長**「超高齢社会日本でのUDの必要性。デザイン振興会でのUDフェア活動の出発から現在に至るまでの試行錯誤の歴史。ものづくりの考え方としてのUDが必要なのは、これからである事。スウェーデン・アメリカの視察からUDは公共が最優先であり、これから明確なUDの社会ビジョンが必要であること。人・素材等での、地域価値を高めるUDとして、価値観転換のときであること。今まで行動してきたことの総括と、学び取ったことを検討し今後のUD活動の新しい展開を考える必要がある」



▶**中川氏**「具体的な動きとしてアジアのUDネットワーク構想について、韓国、台湾が具体的な動きを初めていることへの、日本のUD危機意識を感じたこと。『UD探検隊』による日常の暮らしでの違和感に気づく為の視点を持つこと。地域の価値を活かしながら、これからのUDをものづくりやビジネスとしてしっかり捉え国際的な感覚も必要になる。福島独自のUDも芽生えているので大切にしながら協力、強調していく必要がある」



▶**鈴木氏**「様々な課題を持ちながらも、ふくしまのUDが地域に合ったもので『地域の人の為に』という、具体的な活動ビジョンをもって進める必要がある。UDの理解にも思いやりや優しさといった福祉の考え方からものづくりを含めた環境、自然、ビジネスといった新しい展開や見直しが必要になってきた。これからはより多くのことをトータル的に考えることの模索が必要ではないか」と総括しました。

(事務局 千代記)

## ■ふくしま UD アーカイブ展に寄せて



FUD10年としての歴史を一同にまとめて展示する事で、今までの活動を検証しこれからの展望を開こうと、1年毎にB1パネル9枚の制作に着手しました。が、資料が思うように揃わずに集めた約3,000点の写真と様々なデータ・紙資料などから、主要事項の整理とその年々の主だった事業・イベントを抽出し、裏付け資料と写真の付け合せを何回もしながら確認を取り整理して仕上げました。とてもこんなに苦労をするとは思っていませんでしたが、それでも辿ってきた足跡を懐かしく感じながら取り組むことが出来ました。

振り返ってみると、当初のデザイン文化展から業界活性化と地域貢献を目標に多彩な活動をよくここまで実行出来たと感じました。特にスタートのころはメンバーもまだ若く理想に燃えてく地域活性化プロジェクトを始めく各種、地域づくりサポート事業くUD先進地視察・報告事業くなど様々なセミナー・研究会・委員会活動を活発に取り組みました。その成果をUDフェアで発表することでフェアもますます盛り上がりました。

これからは、新たなメンバーや様々な団体・行政と新たな取り組みを考え、さらなるUD活動の進展を図りたいと思います。  
※資料の提供・貸与・アドバイス頂きました皆様有難うございました。お礼申し上げます。(事務局 佐々木記)

## 「UDスピリット」～UDファッションショー～ 今泉女子専門学校 校長 今泉 玲子氏

本校は、服飾専門学校としてUDファッションについて授業の中で学ぶことはありましたが、ふくしまUDの活動に参加させて頂く様になってから他の分野の方々の様子などを見聞きし大変参考になりました。UDは様々な広がりをもち、生活全てに関連をし、これからは更にこのUDスピリットを広げていくべきと感じるようになりました。

郡山駅前大通りにユニークな種々のベンチが置かれてから、あの通りを歩くのが楽しくなり、ベンチと商店街と、そして行き交う人々の気分を和ませ、UD歩道としての成功例の一つではないでしょうか。

本校では、UDの礼服、UDファッションショーと作品を発表して参りましたが、年を重ねるにつれ、誰にでも優しく、ステキにと、UDスピリットの理解が深まった様です。



郡山市がUD都市として謳われていることはとても嬉しいことで、それぞれの分野で考え出されるUDの作品やスピリットが社会を明るくしていく力になると期待し、本校ではこれからもUD活動を続けていきたいと考えております。

# 第10回 ふくしまUDフェアに参加して

## 「暮らしに根ざしたデザイン」

トライポッド・デザイン(株) 代表取締役 中川 聡氏

かつて暮らしの手帖を発行していた花森氏がデザインを暮らしの中から洞察するのだという話を書いておられたと思う。福島ユニバーサルデザインフェアとおつきあひも早10年になったかと思うと、改めて支えてきた地域の方々の努力に感謝する気持ちで一杯になった。

ユニバーサルデザインも振り返れば米国での地域の公民権運動にそのルーツをみることが出来る。高齢社会が社会や暮らしに深刻な陰影を落とし始めるのはまさにこれからである。我が国でのユニバーサルデザインは既にその意識普及が出来たかのように報じる動きがあるが、まさに今こそ地域の環境や人々の暮らしを洞察して、未来のデザインをのあり方に気づくべき時であろう。デザインは地域に根を深く張り、生きていくべき物であろうと思いたい。

## トライポッド・デザイン(株) 河村 朱美子氏

初めてフェアに参加させて頂いたのですが、多くの方々に展示ブース・販売ブースにお立寄り頂きました。展示作品や製品にご関心を頂きましたこと、又、多くの方々とお会いし、充実した三日間を過ごすことが出来たことを心より感謝致します。

これからも、県民の方々がユニバーサルデザインについて考えることの出来る、このような貴重な機会をつくり続けて頂ければと思っております。

最後に、NPO ふくしまユニバーサルデザインの方々に、多くのご協力を頂きましたことに御礼申し上げます。皆様本当に有難うございました。



## 二本松工業高等学校 情報システム科 紺野 正博氏



UDフェアは、生徒作品の場として大切な行事のひとつでした。2回目からずっと9年間参加し、木製車イスを中心に家具や絵本、アニメにも取り組んできました。発表の度にたくさんの方から

アドバイスを頂き、より質の高い作品をめざすことも出来ました。お陰様で今年は、特別功労賞も頂きました。今回でこのフェアが終了してしまうことは、残念です。

このフェアを通し、本当にいろいろ学ぶことができました。有難うございました。

## 「合唱」 郡山市立安積中学校 佐藤 美奈子氏

今回のUDフェアで歌う機会をいただき、当日は地域の皆様に私たちの歌声を聴いていただけることを部員一同とても楽しみにしていました。



安積中学校合唱部は特設部で、他の部と兼部している部員も多くなります。そのため、限られた練習時間の中で、調和のあるハーモニーを目指し、お互いの意見を多く交換する場を設け活動しています。

今年は初の全国大会出場が決定し、合唱部に新たな歴史が誕生しました。これからも部員みんなが心をひとつにして「心のハーモニー」を奏でて生きたいと思えます。

## 「ユニバーサルデザインについて」

高齢社会をよくする女性の会 会長・FUD理事 青木 千代美氏

男女共同社会基本法が施行されて以来、男女共同参画は自治体政策にとって最優先課題となりました。すべての人にやさしい生活環境の整備、安心して豊かな人生を送れるような支援、UDの視点に立った生活基盤の整備体制に努力を望みます。

UDとは、障がい者と健常者が平等の有無に関わらず一人の人間として個性と能力を活かし安心して豊かな人生を過ごすためにバリアフリーを超えた安心生活のための「巧」を研究されること。いきいきと歳を取って暮らせるまち、これが心のUDが完成されたまちではないかと思えます。

多様な生き方が尊重されつつ共に支えあう共生社会をめざして、男女共同参画とUDとどのような取り組み方をすれば良いのか現状の動向および問題を明かにしていかなければならないと思えます。



## FUD理事(事務局) 小野塚 彰宏

「10年の区切り」に相応しいフェアとなった事に充実感と感謝がこみ上げてきます。UDをキーワードに、人のつながりが創りだす価値と喜びを共有できました。特にトライポッド・デザインさまのサポート、臨場感あるメッセージにより、フェアの質・格が高まり、来場者のUD観に大きく響いた事と思えます。また安積中学校合唱部の素敵なハーモニーの披露は、本フェア趣旨と連動するもので、皆さんに喜びと感動を提供できました。「生きることは関わること」。お互いが尊重しあえる関わりを持ってたら素敵ですよ。NPO ふくしまユニバーサルデザインの一員としてそんな活動に共鳴できる方の入会を心からお待ちしています。

## FUD理事(事務局) 近藤 慎吾

数年越しの念願がかなって、この伝統あるフェアへの参加が出来ました。企画立案から、実務協議、出展者の勧誘、スケジュール調整・確認・つめ…誠に多様な分野の関係者が獅子粉塵の忙殺の中で、次第にフェアが現実となってゆくのを経験しながら、本番を迎えました。各種産業界、福祉業界、行政、そして、教育関係総力を積み上げたこの企画をより多くの皆さんに参加、参入していただき、「UD」の思想が社会の隅々まで普遍的姿に浸透するまでどんな形でも関与し続けて欲しい」と願う次第でした。

## FUD理事・事務局長 千代 貞雄

今回、テナント募集・企画の段階から、どうまとめられるか心配でしたが、トライポッド・デザイン、FUD、商工会議所、テクノポリス、会場設営、参加企業の皆さんの総合力で、無事、10回の記念フェアを成し遂げることができ、感謝のいたりです。来年からの企画をどうするか、是非皆様に共感をもっていただける、「形」を模索しながら活動を続けて行きたいとおもいます。誠にありがとうございました。

## 第10回 UD フェア出展者説明会

特別講演（対談）「これからの身近な UD の可能性」

▶ 8月20日(月) 会場・ビッグパレットふくしま

講師：福島大学行政政策学類 准教授 鈴木 典夫氏

NPO 法人ハートネットふくしま 理事長 吉田 公男氏

(参加者：70名)



人はみな、一人でも生きていける(?)。ただし、健康で何も、異常のないときの事である。異常時や災害時“ライフライン”と呼ばれるものが話題になる。「ガス」「水道」「電気」である。本当だろうか??

実際の災害時に現場にはせまじるとき、それ以上に大事な事があることが分かる。重要なのは、「人と人」のつながりあいである事が、発表された。日ごろの声かけや顔の見える関係、ちょっとした助け合いや気遣い…である。これこそが、最も大事なライフラインで、災害時最も必要なものなのだ。この事は、平日からの、コミュニティが如何に大切で(人間)地域社会に必要不可欠なものか!人のつながりに「もの」も必要なのだが、「もの」を介することによるその効果は人間次第である。つまり、人と人をつなぐ「もの」(概念)がユニバーサルデザインであり、そのキーが「挨拶」であり、人と人のつながり(連携)の起点なのだ、現場の事例を交えて話される。災害現場の非常さと、そこから考えるUDの使命を深く考えさせられました。(事務局 近藤記)

## 福島県作業療法士会への UD 出前講座

「医療のためのユニバーサルデザイン基礎講座」

▶ 8月7日(木) 会場・郡山健康科学専門学校

講師：NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン理事長 佐々木善壽

司会：郡山支部長 富岡 真一氏

(参加者：30名)



当地域で活躍されている作業療法士の皆さんへ、「ユニバーサルデザインなるほどブック」および、映像資料を基に、UD 7原則について、講義を行いました。特に、急速に高齢化に突入している世

界一の長寿国日本の現況に、いかに対応していくべきか、現実に即した UD の事例を取り上げながらの講義でした。

- ①バリアフリーとユニバーサルデザイン
- ②“UD”の提唱者ロナルド・メイス氏について
- ③日本の高齢化社会そして、“UD”の必要性
- ④40～50万人/年、障がい者が発生し177万人がリハビリに奮闘中であること。

人間は、いくつになっても生きたいと考え、その権利を有する者で、UDが安全・安心で快適な生活をどこまで与えうるか…UDの地道な活動がまだまだ必要におもわれました。

後日アンケートの結果は好評でした。

(事務局 近藤記)

## INFORMATION | 随時情報をお寄せください!

FUD-Newsに掲載します。

### NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン情報

#### こおりやまユニバーサルデザイン推進懇談会

いよいよ郡山市も遅ればせながら UD 指針作りに入りました。その為に、UD 指針の策定に関し協議する為の「こおりやまユニバーサルデザイン推進懇談会」が設置され、FUD から佐々木が委員に委嘱されました。

来年3月までに5回の会議開催をして指針を決める相当にキツイ作業が予想されます。本当に郡山市民の為になる少しでも前例より良いものが出来上がるように頑張りたいと思います。県の〈UD 研究会〉から県の UD 指針案作成に参加し、〈UD センター機能検討部会〉などにも携わり行政の考えや問題にぶつかりながら来ましたが、足もとの地元郡山の事としてもう一度取り組もうと思います。

この件でのご意見ご感想など忌憚なくをお寄せ下さい。

(事務局 佐々木記)

#### 第2回こおりやま UD 推進懇談会が開催

郡山市「ユニバーサルデザイン推進懇談会」の第二回会議が、市役所本庁舎で開かれる。

公開協議という事で、FUD からは千代事務局長・近藤総務理事・小野塚理事がオブザーバーで参加しました。会員の方は、出来るだけ時間を作って是非参加してみてください。行政の UD の考え方や取り組みが具体的に見えます。

### Google ニュースアラートより

#### 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり

三重県では、誰もが自由に社会参加できるユニバーサルデザインの街づくりを進めています。現在は、企業 UD 出前講座や・UD 学校講座、またまちづくりリーダー養成の・UD アドバイザー養成講座を開講し、800人のアドバイザーがまちづくりに参加しているようです。先進県でなくても他県の情報は、大変参考になり刺激にもなりますね。

ところで、当会で制作した UD・IT 紙芝居と似たアイデアがありました。三重県では、紙ベースですが様々なシーン(場面)ごとに作られているようで、大変参考になります。

([www.pref.mie.jp/ud/hp/](http://www.pref.mie.jp/ud/hp/))

#### 新会員紹介

■ 賛助会員 村岡 綾子 様 ————— 郡山

#### —— 訃報 ——

FUD 創立メンバーで理事の今川仁史氏が、10月20日(月)深夜、病気にて急逝されました。享年 65 歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。